

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	鳥栖市立基里中学校
1 前年度 評価結果の概要	・昨年度は、コロナ禍の中で学校のあり方が大きく変化した。これを機会に行事の見直しや学校の運営の仕方を見つめ直し、働き方改革を進めていきたい。 ・生徒の学力や生活態度はある程度成果を上げており、落ち着いた学校となっているのは、現在の取組が正しい方向である結果と思われる。今後も、今の状況を続けられるように、チェックを怠らないようにしていきたい。

2 学校教育目標	「誇りと生きる力を身につけ、心身ともに豊かな基里っ子の育成」
----------	--------------------------------

3 本年度の重点目標	(1) 小規模校の利点を生かした学力向上 (2) 豊かな心を育み健やかな体づくり (3) 学校・保護者・地域との連携した教育の展開
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者
(1)共通評価項目				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・校内研修で、「授業づくりのステップ1・2・3」の動画で研修を行い、取組の促進を図る。 ・生徒全員が学びたいと思うような課題設定や教材を工夫し、生徒の興味関心を高める授業を行う。	A	・85%以上の教員が、校内研のテーマである根拠を明確にした表現力の向上のために、日頃の授業に「書く活動」を実践している。 ・引き続き、生徒の興味関心を高める授業を研究を行っていく。	A	・校内研究のテーマ「根拠を明確にして表現する力を育む」に関連して授業を工夫していると回答した教諭が85%という結果になった。また、前半期よりも後半期の方が「振り返り」を多く取り入れた割合が8%も増えていたことが	研究主任
	○根拠を明確にして、表現する力を育むために、理論や方法の共通理解を行い、実践していく。	○表現力の向上のための校内授業公開期間を各学期に2週間設定する。 ○他教科の授業参観を、学期に1回以上のを行い、授業研究会を行う。	・授業参観ウィークを設け、互いの授業参観を実施し、情報交換を図り授業改善を行う。 ・話し合い活動や発表の場を多く設け、生徒の表現力の向上に努める。	A	・授業参観ウィークを1・2学期に1回ずつ行った。その後情報交換会でグループ討議を行い、参考になる事例を共有することができた。	A	・授業参観ウィークの参加、その後の情報交換会で実際の事例をいくつも共有することができた。その成果として、「話し合う活動」の授業への取り組みが8%増加したことが言える。	研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○すべてのクラスで「ふれあい道徳」 ○全職員が人権・同和教育の重要性を認識するため、1人1回以上研修会に参加	・学年や学級の実情に合わせて、道徳教材の研究を継続的に行い、情報交換をする。 ・担当を中心に各研修会の案内と参加の呼びかけを行い、参加・実施に努める。	A	・ふれあい道徳を実施し、保護者や地域の方と一緒に学年で考えたテーマについて考えることができた。	A	・すべての職員が、人権・同和教育の研修(実地研修やオンライン研修)に参加し、研修を積むことができた。	道徳主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○QUアンケートの「悩みを話せる教師がいる」の項目の肯定的意見が80%以上。 ○QUアンケートの「ばかにされた」の項目の否定的意見が80%以上。	・「いじめ・命を考える日」に「生活アンケート」を行い、生徒の実態を把握し、いじめの早期発見・早期解決につなげる。 ・「いじめ・いのちを考える日」の集会を実施し、思いやりのある生徒の育成を図る。	A	・QUの「からかわれたり、ばかにされたり」の項目での否定的意見が82%となり、数値目標をクリアする結果となった。	A	・生活アンケートを毎月行うことで、いじめの早期発見につながった。そのため対応も素早くできた。保護者アンケートからも92%の保護者が、素早い対応をしていると回答があった。 ・「いじめ・いのちの集会」を3回実施できた。	教育相談担当
●健康・体づくり	②望ましい生活習慣の形成	○「早寝・早起きを心がけているか」のアンケート結果の肯定的意見が85%以上。 ○「毎日朝食をとっている」のアンケート結果の肯定的意見が85%以上。	・定期的に、アンケートを実施し、「早寝・早起き・朝ごはん」の実態把握し、啓発指導をおこなう。	A	・11月の調査で「毎日朝食をとっている」という項目に、91.2%の生徒が毎日朝食をとっていると回答している。 ・早寝に関しては、72.4%の生徒が0時までには寝ていると回答している。	B	・「早寝・早起きを心がけているか」のアンケート結果の肯定的意見が85.2%となり、心がけている生徒は多数いるが、7時まで起床している生徒は64.4%、23時以降に就寝している生徒は32%となり、課題が残る結果となった。	食育担当 生活指導担当
	①運動習慣の改善や定着化	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童生徒80%以上	・保健体育の授業において、運動の意義や効果に触れさせながら、運動習慣の重要性を理解させる。 ・行事の精選と校時を守ることで部活動の時間を確保する。	B	・11月の段階で、1日あたり1時間以上運動やスポーツをしている生徒は、68%であった。成果指標には大きく及ばなかった。コロナ感染症の影響が考えられる。	B	・保護者、生徒ともに1日あたりの運動時間が1時間以上の回答は70%を越える結果となった。コロナ過や受験勉強等の原因は考えられるが、その他の要因も大きいのではないかと分析している。	保健体育科担当 生活指導担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・OJTの日常化と連携による校務の役割分担を行い、時間外勤務を削減する。 ・毎週月曜日の定時退勤日の実践を行う。 ・部活動の計画的な運営と休業日の実施	A	・4月は時間外勤務が平均で、61時間となり70時間以上の教員が30%(5人)いたが、5月以降は徐々に減り、平均で37時間、70時間以上の教員が0.5%(1人)になった。	A	・中間報告以降も時間外勤務の時間は低い状態で安定している。部活動の休業日の完全実施、日々の目標帰宅時間の設定が効果を上げた要因と考えられる。	教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・授業参観日に、地域の文化や人材等を生かした体験学習を積極的に行う。 ・小中学校での乗り入れ授業や交流活動を積極的に行う。	A	・11月末の段階で、小中交流も兼ね、中2と小6で川柳の発表会を行っている。この会は、保護者にも公開している。また、月1回の学年通信で各学年の教科「日本語」の取組を紹介している。	A	・中間報告以降も、中1と小5とのスポーツ交流を行うことができた。 ・小中学校で乗り入れ授業については、技術として小3に小刀の使用法の授業と音楽として卒業式の歌の練習を小6に行った。	
○開かれた学校づくり	○地域と連携した学校づくりの推進	○保護者、地域の方の学校行事への参加者増を目指す。 ○地域の人材を生かした授業や講演会を2回以上設定する。	・各種よりや通信、HP、メール等を活用し、行事等の情報の発信を行う。 ・コミュニティスクールの運営を通し各種団体、地域等の協力を図り、教育活動の活性化を図る。	A	・11月までに「大人としやべり場」や「職業人に学ぶ」の教育活動をコミュニティスクールの方々を中心に行っていた。	A	・今年度も区長会や民生委員会等を通して、学校だよりを地域に配布し行事等の情報を広めることができた(12回)。 ・本校出身の著名料理人の講演会を開くことができ、地域の方にも公開することができた。	教頭 各学年主任

●...県共通 ★...鳥栖市共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・コロナ禍の制限が徐々に少なくなったこともあり、昨年度の課題であった小中一貫教育の充実についても、例年通りのやり方ではなく、新しく手法を変えるなど充実が見られた。 ・次年度については、今年度に引き続き小中一貫教育の充実を図っていきたい。新たに防災教育について小中一貫で取り組みたいと考えている。また、今年度B評価だった「望ましい生活習慣」と「運動習慣の改善」を目標がクリアできるように工夫していきたい。
--------------------	--